

お客様各位

FusionPlace 1.6.0 リリースのご案内

2012年1月10日

有限会社ウォーターマーク・アプリケーションズ

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼を申し上げます。

本日、FusionPlace の新バージョン「1.6.0」をリリース致しましたことをお知らせ申し上げます。

記

1. ご提供方法

弊社 Web サイトの「ダウンロード」ページからソフトウェアをダウンロード頂きます。試用許諾条件・使用許諾条件とも、旧バージョンから変更ありません。

2. インストール方法

インストール手続き自体は旧バージョン(1.5)と変わりませんが、インストールの前に、旧バージョンでお使いのデータベースをバックアップするとともに旧版のソフトウェアをアンインストールして頂く必要があります。詳細は、インストーラに同梱されている 1.5 版のユーザマニュアル(fusionplace-usermanual.chm)の以下の項目をご参照下さい：

「FusionPlace をセットアップする」

> 「02. セットアップ手続き」

> 「04. FusionPlace をバージョンアップする際の手続き」

また、今まで 1.4(.x)以前のバージョンをお使いの場合、インストール後、ユーザが FusionPlace にログインする最初のタイミングで、データベースが 1.5 以降向けのレイアウトに移行されます。移行処理は完全に自動的に行われますので、ユーザが手を煩わせる必要はありませんが、以下の三点にご留意下さい。

(ア) データベースに含まれるデータ量が大きい場合、移行処理に数分かかることがあります。

(イ) 1.5 以降向けに移行されたデータベースファイル群をもとに戻すことはできません。

(ウ) 移行によってデータベースファイルの構成が変更され、移行時およびその後の運用時において、データベースフォルダ中に多数のフォルダとファイルが作成されることがあります。これらはデータベースの一部ですので、誤って削除しないで下さい。詳しくはインストーラに同梱されている change-log.txt の冒頭の記述をご覧ください。

3. 変更内容

当バージョンでの、主な機能追加・変更点は以下の通りです。

(ア) Excel-Link での「テンプレート処理機能」の追加

テンプレート処理機能は、ひとつの処理単位（たとえば、店舗と商品部門の組み合わせひとつ）について、Excel シート上で計算モデルを定義しておいて、その計算モデルをすべての処理単位に適用するものです。

計算モデルは Excel 上で定義できるので、算出過程も含めて可視化できます。また、ひとつのモデルがすべての処理単位に適用されるので、Excel シート上に膨大な計算式を記述する必要がなく、メンテナンス上の問題も解決することができます。

テンプレート処理機能を用いて、可変行数の帳票を簡単に作成することもできます。データの表示だけでなく更新も可能ですので、例えば以下のような処理を簡単に実現することができます。

- 店舗と商品部門（売り場）の組み合わせごとに、客単価と客数の実績をそれぞれ予算と対比し、売上高の予算実績差異を、客単価差異と客数差異に分析する。さらに、両差異データを FusionPlace の元帳に反映して、さまざまな帳票で表示可能とする。
- すべての部門の人員数に対して予定人件費単価を掛けて予算人件費を算出し、FusionPlace の元帳に反映する。
- 海外の子会社の外貨ベースの売上・費用に、各子会社の通貨によって決まる換算用為替レートを乗じて、外貨換算を行う。

テンプレート処理機能の詳細については、ユーザマニュアルの以下の項目をご覧ください。

FusionPlace のしくみ

>13. Excel-Link

>01. Excel-link の概要

(イ) Excel-link の Microsoft Excel 2010(64 ビット版)対応

従来のバージョンでも、Microsoft Excel 2010 の 32 ビット版はサポートしていましたが、64 ビット版は未対応でした。当バージョンでは、64 ビット版にも対応致しました。

(ウ) コマンドラインツール(Requester)の機能改善

コマンドラインツールである Requester で実行できる処理の種類を増やすとともに、Requester を用いたバッチファイルの作成を容易にするための改善を加えました。

- Requester で元帳データのエクスポート・元帳変更履歴の削除・不要データの整理等を行えるようにしました。
- Requester のデータインポート処理・ディメンションメンバインポート処理で、インポートするデータを、従来は、リクエスト XML に埋め込む必要がありましたが、別ファイルから読み込むことができるようになりました（エクスターナルモードと呼びます）。これにより、インポートデータ中の特殊文字を記号で置き換える「エスケープ処理」が不要になります。
- Requester の実行時に、処理結果に応じて終了コードを設定するようにしました。これによってリクエストを実行するバッチ処理で、エラー・警告の有無を判定して処理を分岐することが容易になりました。

以上に加えて、さらにいくつかの改善、不具合事項への対処を行っております。詳細はインストーラに同梱されている change-log.txt に記述しておりますのでご覧ください。

以上